

# Newsletter 48

慶應義塾大学教養研究センターニューズレター第48号/2026年5月15日発行

## Contents

### 巻頭言

特集Ⅰ 「基盤研究」「学習相談」

特集Ⅱ 「最終講義」「読書会推進企画」「晴読雨読」  
「2026年度センター選書募集」

特集Ⅲ 【教養研究センター 設置科目】  
アカデミック・スキルズ/身体知・音楽/金融リテラシー入門/ゲーム学/  
実験授業「エンターテインメントビジネス特論」

特集Ⅳ 「日吉行事企画委員会 (HAPP) 企画」

特集Ⅴ 「情報の教養学」「『創造力とコミュニティ』研究会」

### 活動予定

私の〇〇自慢



懐かしのやんちゃ坊主たち

## 若者の笑顔、オヤジの涙腺

教養研究センター副所長  
鈴木亮子 (経済学部)  
Ryoko Suzuki

2008年から2010年まで在外研究のためカリフォルニアのゴリータという町に家族で暮らしました。英語がわからずに地元小の2年に編入した息子は、ほどなく近所の級友と互いの家を行き来して遊ぶようになりました。特に馬が合ったのはやんちゃ・腕白を絵に描いたようなD君で、放課後に近所の大人が無料で教えてくれるトランペット教室と一緒に通ったり、同じバスケットチームに入ってトーナメントで優勝したりと楽しく過ごしました。ある日のおやつに、私がお餅をバターで焼いてお醤油を垂らして出したらD君は大変気に入ってしまい、やがて我が家に来てはWhere's my mochi?とせがんでくるようになりました。しかし、私たちの帰国した数年後にD君一家はオレゴン州に越したと聞いたきり、音信が途絶えてしまいました。

しかし、SNS恐るべし。ある日息子が「(D君の弟と)なんか、インスタで繋がった」と言うのです。それからはD君の話題が我が家で上るようになりました。州兵として働いていると聞いて大丈夫かと心配したり、2年前には結婚したと聞いてビックリしたり。そしてこの3月、D君は休暇を取り奥さんと来日しました。2人とも初の海外旅行と言いつつ、イマドキの常識なのかTikTokお勧めのアクティビティや食事処を幅広く網羅し、カラオケボックスに

行けば日本のサラリーマンたちと肩を組んでWe are the worldを熱唱したそうです。

D夫妻が我が家に来てくれた夜、食卓を囲みながら、相変わらずお餅が大好きでインターネットで購入しているとD君から聞いて嬉しくなりました。彼は昔を振り返って息子に、“Your father was strict, your sister was mean, but your mother was so sweet!” としみじみ言うので、一同大笑いしました。オレゴンでのD夫妻は、近所に住むお互いの家族と毎週のように食事をするそうです。髭を生やし腹にお肉を蓄えたD君は、いたずら小僧の面影を残しつつ「オレゴンの高校で彼女に巡り合って結婚して、僕はいい人間に変わったと思う」とにっこり。とてもいい顔でした。彼らを見送って、夫は「嬉しいなあ…」と涙腺を緩めていました。

その翌日のこと。玄関のブザーが鳴り、出てみると、N君がニコニコ立っていたのです。実は、N君については2024年春のこのコーナーで紹介しました。夫と私が公立高校の受験に向けた支援や銀行口座開設のサポートをした外国ルーツの高校生です。授業のために貸していた柔道着を、返しに来てくれたのでした。2年前は日本語で話しかけても困ったような顔で黙っていたけれど、今は「学校やアルバイトを頑張っている」と笑顔で話してLINEの交換もしてくれました。今のN君は、日本語とスマホというサバイバルツールを手に入れて、母親と兄と元気に暮らしているのです。夫の涙腺は崩壊しました。

最近暗い話題が多い中、笑顔の若者たちからの久しぶりの来訪を受けて、救われた思いのする3月でした。

# 基盤研究

## 文理接続プロジェクト

「文理接続研究会」では、文系・理系の多様な分野の研究者が集い、共同研究をするのではなく、共通テーマの下で各々が自分の専門分野に留まりつつ考察を深め、互いに刺激を与え合うという試みを続けています。

2025年度は、2024年度に続き「人工」を共通テーマとして定め、以下のように、2回のゲスト講演と4回のワークショップを行いました。

- ①ゲスト講演1（2025年5月24日）富岡薫さん「日本における人工妊娠中絶の歴史と現状：過去、現在、そして未来へ」、
- ②ゲスト講演2（6月28日）金子晋丈さん「ネットワーク：自然と人工のインタラクション」、
- ③ワークショップ1（7月19日）「論考の計画発表」発表者8名、
- ④ワークショップ2（10月4日）「論考の中間発表1」発

表者4名、⑤ワークショップ3（12月6日）「論考の中間発表2」発表者6名、⑥ワークショップ4（2026年2月28日）「論考の最終発表」発表者7名。



最初の2回のゲスト講演を考察の手掛かりにして、年度末までに論考集『接続』第4号への掲載論文を作成することを前提に、各自が考察を積み重ねました。論考集は2026年4月末に発行の予定です。ぜひご覧ください。

研究会の活動は随時ブログで公開・更新しており、2022年度～2024年度の成果である『接続』第1号、第2号、第3号も閲覧できます (<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/bunri/>)。

研究会に興味のある方は、ぜひ気軽にご連絡ください。  
(荒金直人)

## 高大連携プロジェクト 舞踏家・小林嵯峨による舞踏ワークショップ「こころ」

本事業は前年から継続して実施している催事であり、講師および参加者は変更されたものの、内容および基本的なコンセプトは継続されています。2019年度より教養研究センターでは「高大連携」を事業計画の柱の一つとして位置づけており、その具体的な実践方法については継続的な課題となっています。本プロジェクトでは、慶應義塾高等学校との連携のもと、新たな教養を涵養する教育プログラムを模索するため、身体関連ワークショップを実施しました。言語的・非言語的コミュニケーション能力の育成を目的とした身体知に基づく教育は、これまでも設置科目や新入生歓迎行事等で行われてきましたが、本事業では対象を一貫教育校に明確化し、高大連携の枠組みで発展させました。

実施日は12月17日で、申込制により約30名が参加し、約

7割が高校生、残りが大学生でした。会場は日吉協育棟で、東北産木材を活用した空間特性もプログラムに取り入れました。講師には70代の女性舞踏家・小林嵯峨氏を招聘しました。講師の指導のもと、参加者は自ら動き、他者の動きを観察することで身体感覚を高め、豊かな表現力を養いました。高校生と大学生が同一空間で活動し意見交換を行うことで、他者の身体への理解を深める貴重な機会となりました。

(小菅隼人)



# 学習相談

今学期も日吉図書館スタディサポートの一隅、学習相談デスクで勤務いたしました。

昨日までの相談記録・引継ぎを確認し、デスクの前を通り過ぎる学生たちを横目にのんびり待っておりますと、突然、飛び込むように相談者がやってきます。迫りくるレポートのメ切に焦っていたり、エクセルの操作がうまくいかず困っていたり。

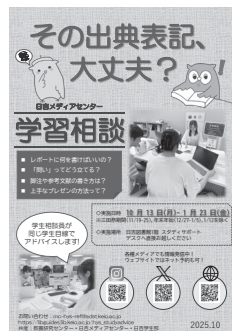
デスクの空気がピンと張りつめる瞬間です。しかし、僕が変わらず落ち着いたトーンでお話を伺っているうちに、自然と自分自身で糸口を見つけ、解決することも少なくあ

りません。本当に焦っているとき、誰かに話をすることで、ふと冷静になれるのだと思います。これからも、困った学生が走り来る（本当に走って来る人がいます）駆け込み寺、心のよりどころとして、学習相談が存続できたら嬉しいです。

私も微力ながら、そのお助けだけでも。

(城石航太郎 経済学部2年)

※学年は2025年度当時



## 法学部 横山千晶教授 最終講義

横山先生は、英文学に広く精通し、モリスとラスキンの研究では、日本の第一人者であるだけでなく、学術的な研究を教育的な実践や社会的な活動に結びつける、革新的な仕事をされてきました。教養研究センター所長としては「アカデミック・スキルズ」や「身体知」を設計し、これらの科目を十数年にわたって教えられてきました。前者は初年次教育の理想的なモデルとして非常に高い評価を受けてきましたし、後者は座学的な授業運営のあり方を再考させる、画期的な双方向的授業となりました。

最終講義「存在の耐えられない軽さの跡を残す」は、研究と教育と社会活動を結びつけて実践されてきた横山先生の生の軌跡を私たちに体感させてくれる絶好の機会となり

ました。現在の私たちの置かれた政治状況の考察から始まり、英国でのリサーチの目的を明らかにしつつ、ラスキンと労働者大学の関係を紹介していく、スリリングな講義でした。その中でも多くの聴衆の心に触れることになったのは、横山先生の「存在の耐えられない軽さ」を担うことを余儀なくされている人たちへのコミットメントです。横山先生がヴィクトリア朝の文学を研究しながら、その共感的な想像力を横浜の寿地区の「カドベヤ」で実践されてきたこと——その誠実な知性のあり方から、私たちは多くを学ばせていただきました。

(佐藤元状)



## 読書会推進企画「晴読雨読」

「本とアイデアを持ち寄る」ブックトークの場、アイデアの系譜学読書会も無事、3年目の終わりを迎えました。引き続き、来往舎103/104号室を会場に設定し、普段は交わらない「さまざまな日吉の人々」の動線を、ひととき繋げてみようかと奮闘しています。教室がガラス張りになっていることもあり、廊下を往来するスタッフのみなさんからも「あ、いつもの何かをやっているな」と、認知してもらえることが増えました。参加している人はもちろんのこと、読書会に参加していない人にとっても、気がつけば「傍らにふと存在する」場を目指しています。

秋学期は4回のブックトークを実施し、各回のテーマはそれぞれ「お悩み相談の機微」、「『間合い』の研究」、「語学愛!!」、「動く・浮かぶ・静止する」としました。少し謎めいた、それでいてちょっと愉快的なフレーズ作りを意識

していますが、ここ最近では日吉キャンパスをめぐるネットワークの交差、他の研究センターや塾内組織の活動との接点探しも、裏テーマとしてしています。例えば、お悩み相談では協生環境推進や学生相談について、間合いや動くでは大学の体育について、語学愛ではもちろん外国語教育について等々、日吉で行われている多様な活動や研究について、注意を向ける場にもなればと思っています。ここ最近では他キャンパスの専任教員、日吉キャンパスの事務スタッフのみなさん、慶應出版会の編集者の方なども参加されることがあり、ブックトーク・ユニバーサルは、拡張を続けています。

(若澤佑典)



### 《2026年度教養研究センター選書 原稿募集》

教養研究センターでは、2003年度以来「教養研究センター選書」を刊行しております。この企画は、当センター所属の研究者が、その学術研究の成果の一端を、学生を中心とする一般読者にいち早く発信して新鮮な知の一石を投げ、研究・教育相互の活性化を目指そうとするものです。

■応募資格：教養研究センター所員（共同執筆も可）

■内容：研究分野は問わない。学術論文とは異なる啓蒙的な切り口で、先端的な研究成果を紹介し、学生や一般読者に新鮮な知の形成に立ち会う機会を提供するもの。

■申込締切日(予定)：2026年8月28日(金)

■原稿提出締切日(予定)：2026年9月30日(水)

●詳細は別途所員宛にご案内いたします募集要項をご確認ください。

※締切日につきましては変更になる可能性があります。



### アカデミック・スキルズ（木曜2時限クラス）

知の技法をめぐる探究は、相反する二つのダイナミズムが重なり合うなかで、創造的なものへと変容していきます。一方で、日々の自分を離れて「三人称」で思考し、論理的に構成された記述フレームで、自身の声を成形します。他方で、俯瞰的に思考しつつも「自らの視点」が求められ、先行知見の整理要約のみならず、論理展開や主題設定で「わたし固有のストーリー」を展開する地平が開けます。クリティカルな探究とクリエイティブな実践は時に衝突しつつ、実のところ

### アカデミック・スキルズ（木曜5時限クラス）

木曜5限に開講された本クラスでは、春学期には19名の、秋学期には13名の履修者が集まりました。限られた期間で論文テーマの設定から、執筆までを行うため難易度が高い本授業ですが、履修した学生はそれを楽しみながらこなしてくれました。もちろん良質な論文を書くことが授業の最大の目標ではありますが、それ以外にも「いい質問をすること」「積極的にほかの学生にアドバイスすること」などを求めました。学生側でもこちらの意図を汲んで、活発な議論を展開してく

### アカデミック・スキルズ（金曜5時限クラス）

春学期の金曜5限クラスは、履修生14名で開講されました。規模としては決して大人数ではありませんが、医学部1名、理工学部1名、薬学部2名と理系学部からの履修者も見られ、学部を超えた知的交流を促すという教養研究センターの趣旨に沿った構成となりました。授業では3～4名によるグループを編成し、それぞれが1つのテーマを設定して発表を行い、最終的に共同で論文を執筆することを到達目標としました。学生同士が互いの議論に触発され、問いを深めていく姿が見

は相補的なのです。木2授業では「論文の書き方」は一旦脇に置き、キャンパス内でグループ・ポートレートの写真作品を撮ってみたり、教員と学生の立場を交換し、新入生が自分の思う「大学の講義」をデザインしてみたり、図書館で文芸雑誌のブラウジングから「編集知」について学んだり、辞書コーナーの本の並びから知の分類を夢想し、普段とは違った並びの本棚を作ってもらったり、藤山記念館のシアタースペースにお出かけしたりと、「飛び出す」知性の実践がテーマです。（若澤佑典）

れました。こうした空間を共有できたことは本授業を受講した学生にとって一番の収穫だったかもしれません。また忘れてはならないのが、教員とともに学生に意見をくれたTAの吉清綾乃さん（文学部3年）の存在で、常に有用かつ的確なアドバイスをしてくれました。

最終的に提出された論文は、いずれも完成度が高く、それぞれの努力や工夫が垣間見られるものでした。結果的に学期末のコンペティションでも賞をいただき、学生の頑張りが認められた形となりました。（山口早苗）

られ、目標とする知的交流は概ね達成されたと評価できます。秋学期には履修者が減少し、最終的に論文提出まで到達したのは3名でした。しかし3名はいずれも自ら設定した課題に真摯に向き合い、粘り強く研究を進め、無事に最終論文を提出するに至りました。本授業は春秋連続履修を前提として設計していますが、近年の履修動向を踏まえると、1年間を通じた継続的学修を維持することは必ずしも容易ではありません。今後は現状を踏まえつつ、より持続可能なカリキュラムの在り方を検討する必要があると考えています。（原大地）

## 2025年度 アカデミック・スキルズ コンペティション受賞者一覧

### ■論文コンペティション

賞	クラス	学部・学年	氏名	タイトル
大	木曜5限	文・1	金兵真由美	笑わないことはどのようなブーの性格を示唆するのか—smile にはない攻撃性を含む laugh の次如という視点から—
金	木曜5限	商・1	加藤 可蓮	地域性に着目した洋菓子包装デザインの定量分析—主要成分分析とクラスターリングによる関東・関西比較—
	木曜5限	理工・1	豊田 大輝	語りの媒介者としての生成 AI—イタコの口寄せに見る集合知の個別化—
	金曜5限	文・1	吉澤 進哉	地域おこし協力隊—主人公は地域住民か隊員か—
銀	木曜5限	法・2	倉井 涼	GPT-5への移行に伴う炎上騒動に対する「弱いロボット」概念を用いた考察
	金曜5限	文・1	後藤真理子	「困った子」から「困っている子」へ—発達障害の捉え方—
	木曜5限	経済・1	鹿野 利奈	「話さない子ども」としてのペット—擬人化とペット産業の関係—
銅	木曜5限	理工・1	相曾 俊弥	AIアプリケーションを用いた、候補者の顔貌が得票に与える影響の分析—2025年静岡県磐田市議会議員選挙、2023年静岡県湖西市議会議員選挙、2023年神奈川県横浜市議会議員選挙の比較を通して—
	金曜5限	商・1	山野 有生	「太陽の祭り」におけるリヤマの役割—彼らはただの家畜か—
	金曜5限	商・1	山野 有生	「太陽の祭り」におけるリヤマの役割—彼らはただの家畜か—

### ■プレゼンテーションコンペティション

賞	クラス	学部・学年	氏名	タイトル
金	木曜5限	文・1	金兵真由美	笑わないことはブーのどのような性格を示唆するのか—smile と laugh という2種類の笑いから—
	木曜5限	理工・1	豊田 大輝	「語りの媒介者」としての生成 AI
	木曜5限	法・2	マニエ 渡邊 智茂 渡辺 マリ 怡輝 スタブ モリス	マイボトル・水筒が個人のウェルビーイング向上へ与える影響—自己表現の観点から—
銀	木曜5限	文・1	柳瀬 はな	コンテンポラリー・ダンスが示唆する障害との共生
銅	木曜5限	理工・1	相曾 俊弥	選挙候補者の顔貌は得票にどのような影響を与えるのか—3つの選挙をAIで分析して—
	金曜5限	文・1	後藤真理子	発達障害の捉え方を考える
	金曜5限	文・1	吉澤 進哉	地域おこし協力隊—主人公は隊員か地域住民か—
佳作	木曜5限	経済・1	鹿野 利奈	「話さない子ども」と代弁—ペット擬人化は誰のためか—
	金曜5限	商・1	山野 有生	「太陽の祭り」におけるリヤマの役割—彼らはただの家畜か—

※学年は2025年度当時

# 教養研究センター設置科目



### 身体知・音楽

2025年度の教養研究センター設置科目「身体知・音楽」は、例年通り2つの授業を開講しました。1つは「古楽器を通じた歴史的音楽実践」であり、他方は「合唱音楽を通じた歴史的音楽実践」でした。2025年度は、石井が声楽と器楽の両方のクラスを開講しました。授業の成果発表演奏会については、慶應義塾大学古楽アカデミー・室内アンサンブルの演奏会を昨年同様、春学期の7月13日に実施し、声楽と器楽クラスの合同成果発表演奏会については、1月10日に催しました。こ

れらに加え、ドイツのヴェルニゲローデ放送合唱団青年部が再来日し、10月12日に器楽クラスおよび合唱クラスのメンバーと合同で演奏会を行いました。前回同様、このような国際的な交流は、学生にとってとても貴重な体験となりました。いずれの演奏会もキャンパス内外から多くの聴衆の来場があり、盛況に終えることができました。尚、上記演奏会はすべてYouTubeを介してライブ配信を行い、現時点でも視聴が可能です。（慶應義塾大学日吉音楽学研究室のHPにリンクの記載あり。http://www.musicology.hc.keio.ac.jp）（石井明）

### 金融リテラシー入門

SMBC寄附講座「金融リテラシー入門」は、教養研究センター設置科目として、2024年度の実験授業を経て、2025年秋学期に開講となり120名の定員を大きく上回る履修登録希望をいただきました。本講座は十数大学で展開されていると伺っていますが、大学としてオリジナルのカリキュラムを組んでの開講は初で、半期の全14回のうち10回については、塾内の教員、或いは塾員で士業に付く皆様を招聘し、残り4回を、SMBCグループの各企業から講師を派遣いただき授業を編成致しました。いずれの回も、実施前に内容の入念な打ち合わせを行い、更に、各回の学生からのリアクションペー

パーの内容や、全ての授業後に学生数名との直接の対話によって都度、反応や要望をキャッチし、可能な限り授業と並行して内容のupdateを行っていくような仕組みにし、補講も1回実施しました。またAI時代に伴い、学生全員が同じ答えとなるような課題は控え、個々人のオリジナリティーが伴う課題の設定と致しました。講座の各回の内容等についてはシラバス等をご参照ください。（寺沢和洋）



### ゲーム学

「ゲーム学」はデジタルゲームをアカデミックに考察することを目的とした講座です。オムニバス形式をとっており、デジタルゲームの専門家や塾外より招聘するほか、理系文系を問わず、義塾教員が自らの専門分野の知見からデジタルゲームについて論じる点に特色があります。2025年度においては新たな講師を迎え、トピックスの幅を広げました。最終的な履修者は70名ほどで、海外出身者や将来ゲーム業界への就職を考えている学生も少なからずおりました。各講義ではデジタルゲームにおける海外市場の重要性、日本のIP（イン

テレクチュアル・プロパティ）の強み、他分野へのデジタルゲームの応用、また近年重要なテーマとしてAIとデジタルゲームの関係などが論じられ、受講者の高い関心を惹いていました。ゲームに限らず、漫画やアニメ、ポップミュージック、アイドル産業など、いわゆるサブカルチャーとして括られる分野についての研究教育活動を今後、どのように義塾でおこなっていくかは喫緊の課題です。引き続き発展性のある土台づくりに着手していきたいと考えています。（新島進）

### 実験授業「エンターテインメントビジネス特論」

2025年度秋学期に実験授業「エンターテインメントビジネス特論：日本アニメの次の10年を展望する」を実施しました。現代日本のエンターテインメントビジネスの中でも中心的な存在であるアニメビジネスに特に焦点を当て、その「次の10年」を展望するもので、2026年度から開始する寄附講座の準備段階として位置づけられている授業です。研究者による講義（三原龍太郎・経済学部准教授）に加えて、アニメビジネ

スの最前線で活躍する実務家からも数多くのゲスト講義を得ることができました。具体的には、平澤直氏（アーチ株式会社代表取締役・創業者）、谷口悟朗氏（アニメーション監督）、竹内文恵氏（アスミック・エース）、小形尚弘氏（パンダイナムコフィルムワークス）からゲスト講義をしていただきました。毎回の授業では出席者と登壇者の中で活発な議論が交わされ、非常に満足度の高い内容となりました。（三原龍太郎）

# 日吉行事企画委員会 (HAPP) 企画 (秋学期)

## ジェンダーレスなインプレッションメイク

この講座では、個人が持っている様々な属性—ジェンダー、年齢、人種、体格、容姿—は、メイクアップによって超えることができるということコンセプトにして、まずは「自己」を見つめ直して、そこから湧き上がる表現を自分で創ることを目的としています。この4年間で特筆すべきは、毎回、男子の参加が増えていることです。今年は、塾高生、男子留学生の参加もありました。講師の松下里沙子さんは、前回の多様性から進めて「ジェンダーレス」にフォーカスして、男らしさ/女らしさを強調するよりも、個人を生かしたメイクを提案しました。当日は、松下さんによるパワーポイントを使いながらの個性の考え方についての20分講義、続いて2人の学生（理工学部/商学部1年生）をモデルに、メイクアップのワークショップが行われ

ました。質疑応答の時間を30分とっていましたが、活発な質疑応答が行われ、メイクそのものに対する質問と、松下さんのキャリアアップに対する考え方への質問がありました。松下さんは文学部を卒業して富士通に4年間務めた後、ニューヨークに渡ってメイクアップ・アーティストになりました。そのキャリア形成そのものが、特に聴衆の興味を引いたと思われます。参加した学生たちにとって有意義な時間となりました。(小菅隼人)



## 教養の一貫教育Vol.11

### 「永井荷風文学賞リレー講演会1 田中純×松浦寿輝×朝吹亮二」

詩人の吉増剛造氏を招いて2019年より5年にわたって行われた「Voix/Voie 詩と音楽の交差するところ」シリーズの後継企画。『三田文學』と千葉県市川市との協働で永井荷風文学賞が新設されたことを機に、第1回大賞受賞者である田中純東京大学名誉教授をお招きしました。田中純氏による『磯崎新論』（講談社）についての基調講演のあと、詩人・作家で永井荷風文学賞審査員でもある東京大学名誉教授の松浦寿輝氏、詩人で本塾名誉教授の朝吹亮二氏を交えた鼎談形式を取りました。引用の織物としてのつくばセンタービル（本イベントのポスターに使用）から、磯崎建築の廃墟性（大分、広島の戦後の風景からの出発）、磯崎と師の丹下健三との関係、タルコフスキーの『惑星ソ

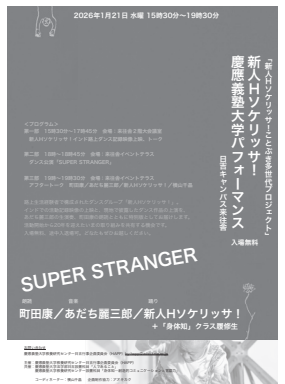
ラリス』の海がみせるシミュラクルにまで話は縦横無尽に及び、どの話題となっても会場の塾生たちの知的な運動神経から登壇者との活発な質疑応答が続き、当代最良の知性との交流を塾生たちが堪能した記念すべき回となりました。(古川晴彦)



## SUPER STRANGER 新人Hソケリッサ!

教養研究センターと通信教育部の共同設置講座「身体知」では、2022年より3年間にわたって、路上生活者・路上生活経験者とダンスチームを結成し、身体表現を通して人のあり方を発信しているアオキ裕キ氏にファシリテーターを務めていただきました。2023年の10月には、授業の成果発信としてアオキ氏の率いるダンスチーム、「新人Hソケリッサ!」と「身体知」履修者の通学生、通信教育課程の学生によるダンス公演を行いました。本年度は、15年間続けてきた「身体知」の授業の最終年度として、ソケリッサ!のインドツアー記録映像公開、そして作家町田康氏と音楽家あだち麗三郎氏を迎え、学生も交えての公演とアフタートークを行いました。ダンス公演は、あだち麗三郎氏のドラムと町田康氏の朗読という音に合わせ、照明を効果的に使用した体全体に働きかけるパフォーマンスへと

発展しました。最後は観客も交えてのアンサンブルとなり、イベントテラス全体に身体記憶を染み渡らせるような公演となりました。アフタートークでは観客から身体知の授業についての質問が学生たちにも問いかけられ、最終発表会にふさわしい時間を提供できました。今回は、町田康氏の長年のファンなど、多くの層の観客を集めました。文学の新しい読み解き方を大学として提示し、様々な意見交換ができたことは貴重でした。(横山千晶)



# 情報の教養学 (2025年度秋学期)

2025年度秋学期の「情報の教養学」では、3件の講演を実施しました。まず、山中祥太氏 (LINEヤフー (株) LINEヤフー研究所 上席研究員) は、ユーザインタフェース (UI) のデザインについて講演しました。2025年の大学入学共通テストの問題を取り上げ、UIの理論的研究との関係について解説しました。また、スマホにおいてアプリのボタンをタップするときの成功率を推定する研究およびそのツールTappyを紹介しました。

次に、山本龍彦氏 (法務研究科教授) は、アテンションエコノミーについて講演しました。SNSを無料で使っている、依存症のような状態を作り出すこと

**使いやすいユーザインタフェースのデザインを理論的に研究する**

使いやすいUI/UXのデザインを研究することは、利便性と生産性の両方にとって重要です。本講演では、最新の研究成果に基づいて、UIデザインの理論と実践について詳しく紹介します。また、大学入学共通テスト「情報」で出題された問題にも、デザインを研究することの面白さを紹介します。

事前申込制  
<https://bit.ly/4bYFpEG>  
 日時: 10月22日(水) 16:30~18:00  
 対象: 学生・教職員

**山中祥太** 10月22日(水) 16:30~18:00  
 LINEヤフー研究所 上席研究員  
 講師: 山中祥太氏 (LINEヤフー研究所 上席研究員)  
 会場: 日経センター大ホール (1階) 大ホール  
 申込: <https://www.kyushu-u.ac.jp/~info>  
 問い合わせ: [kyushu-u@info.kyushu-u.ac.jp](mailto:kyushu-u@info.kyushu-u.ac.jp)

**AI×アテンション・エコノミーと人間の尊厳—SNSはあなたを幸福にしていますか?—**

多くのSNSは無料で利用できますが、実は見えない時間やアテンションを「支払って」います。「アテンション・エコノミー」と呼ばれるこの経済モデルの裏面では、AIが大量のデータを収集し、人間の行動を予測し、このモデルの効率を最大化しようと努めています。

11月5日(水) 16:30~18:00  
 事前申込制  
<https://bit.ly/4bAZ66n>  
 日時: 11月5日(水) 16:30~18:00  
 対象: 学生・教職員

**山本龍彦**  
 法務研究科教授  
 講師: 山本龍彦氏  
 会場: 日経センター大ホール (1階) 大ホール  
 申込: <https://www.kyushu-u.ac.jp/~info>  
 問い合わせ: [kyushu-u@info.kyushu-u.ac.jp](mailto:kyushu-u@info.kyushu-u.ac.jp)

により「時間」を払っており、人間の思考の潜在的な部分に働きかけることにより、思考の弱体化につながるなど危険を述べました。そして「情報の健康」が重要になると説きました。

最後に、高道慎之介氏 (理工学部准教授) は、音を対象にAIを活用した研究 (音のAI) をとりあげ、人間や文化の拡張や、人間の知覚への介入や模倣について講演しました。音声の基本的な解説をした後、怒鳴り声を和らげる研究、漫画からオーディオコミックを作成する研究、リアルタイムで声を異性に変更する研究など、動画を通して紹介しました。

いずれの講演も参加者は興味深く聴講し、質疑も活発でした。2026年度は、春・秋を通して6件の講演を実施する予定です。

(高田真吾)

**音のAIを知り人間を知ろう**

音は豊かなですが、我々はそれに人間性や芸術性を見出して人生を豊かにしています。昨今では音を理解するAIが現れ、人間性や芸術性を学ばせています。本講演では、音AIは何をできるのか、音AIは何をできないのか、それらと対峙させて、人間は何を行っているのかに関する研究を紹介いたします。

12月3日(水) 16:30~18:00  
 事前申込制  
<https://bit.ly/4bYFpEG>  
 日時: 12月3日(水) 16:30~18:00  
 対象: 学生・教職員

**高道慎之介**  
 理工学部准教授  
 講師: 高道慎之介氏  
 会場: 日経センター大ホール (1階) 大ホール  
 申込: <https://www.kyushu-u.ac.jp/~info>  
 問い合わせ: [kyushu-u@info.kyushu-u.ac.jp](mailto:kyushu-u@info.kyushu-u.ac.jp)

# 2025年度「創造力とコミュニティ」研究会

「創造力とコミュニティ」研究会は本年度で7年目の最終年度を迎えました。最終年度は、過去6年間の研究会の総括として、持続性の見地からコミュニティづくりや創造的な活動を行っている人々を招いて、自然との共存、他者との共存を意識したコミュニティづくりについて研究会を開催しました。2025年度は前年度の「持続可能性」のテーマを敷衍する形で、「消費」をテーマとしましたが、それは単に日常生活の中で行われる経済活動にとどまりません。基本的に消費とは、物作りにかかわる人々の労働力、ひいては命をも消費することにつながるからです。また、同時に国際的な文化活動の中で互いの文化圏での生活、つまり消費するという行為がどのように新たな文化交流と創造を生み出すのかについても考

**第32回「創造力とコミュニティ」研究会**

得我(描)くワタシとI do meするわたし  
 一つの命を自覚する。新しい命の誕生を自覚する。

2020年の1月、理学博士として働いていた山本美貴氏は、産婦人科に置いて「得我(描)くワタシとI do meするわたし」というテーマで講演しました。山本氏は、自分自身を「得我(描)くワタシ」として捉え、その「得我(描)くワタシ」として生きるという生き方を追求しています。山本氏は、自分自身を「得我(描)くワタシ」として捉え、その「得我(描)くワタシ」として生きるという生き方を追求しています。山本氏は、自分自身を「得我(描)くワタシ」として捉え、その「得我(描)くワタシ」として生きるという生き方を追求しています。

● 講師: 山本美貴 (たかきみ みき) さん  
 (産婦人科で「命の共創」をテーマに講演)

● 日時: 2025年11月4日(水) 18:30~20:00 (予定)

● 会場: 日経センター大ホール (1階) 大ホール  
<https://ameblo.jp/kadoyobey2010/>

● 申込: 無料  
 ● 申込ご希望の方は、産婦人科大学学術部・山本千鶴 (chacky@kyoju.ac.jp) までご連絡ください  
 主催: 産婦人科大学学術部・山本千鶴 (chacky@kyoju.ac.jp) 産婦人科大学教員研究センター

察しました。最後には、「他者」とされがちな犯罪者の声に耳を傾け、寄り添う教誨師の方をお招きし、命の寄り添いについて考える機会を設けました。具体的な内容は以下の通りです。

- ・自然との共存: 動物社会から学ぶ 林良信氏  
 第30回「すごいぞ! シロアリのコミュニティ」  
 第33回「ますますすごいぞ! シロアリの底力」
- ・国際的な文化活動と文化交流  
 第31回「ダンスで世界をつなぐ」チームMIMIZUの挑戦
- ・労働災害と人の命 榊山美賛氏  
 第32回「得我(描)くワタシとI do meするわたし」
- ・動物の命と消費: 野生との共存と消費 保莉優雅氏  
 第34回「自分の生き方を自分で選ぶ~野生とともに生きる~」
- ・「他者」に寄り添う: 教誨師という役割 田中英真氏  
 第35回「受刑者の言葉に耳を傾ける~教誨師として生きる~」 (横山千晶)

**【全体ガイダンス】**  
 4月2日(木) 13:00~14:30  
 日吉キャンパス独立館DB203

**【学会・ワークショップ等開催支援】「金融リテラシー入門」**  
**スピンオフ企画 vol.1 “知らなかった”を防ぐお金の教養**  
 4月2日(木)15:30~17:00 日吉キャンパス独立館DB203

**【情報の教養学】第1回：福井健策「クリエイターと生成AI：新たな可能性か、努力へのただ乗りか？IPをめぐる世界の議論を眺める」**  
 4月16日(木) 16:30~18:00  
 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【HAPP】新入生歓迎行事 特別講演会「学問すること、異なる世界に目を向けることの大切さ」**  
 5月11日(月) 16:45~18:30  
 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【学会・ワークショップ等開催支援】公開シンポジウム「現代ベトナムを知る2026」**  
 春学期 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【読書会】「晴読雨読」第23回：若澤佑典**  
 5月27日(水) 17:00~18:00 日吉キャンパス来往舎103/104

**【情報の教養学】第2回：徐遠「将来の企業において人とロボット・AIが共存できるか」**  
 6月10日(水) 16:30~18:00  
 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【HAPP】新入生歓迎行事 笠井韻舞踏公演**  
 春学期 日吉キャンパス来往舎イベントテラス

**【学会・ワークショップ等開催支援】日本福祉心理学会第24回大会(記念講演、シンポジウム1、2)**  
 8月8日(土)、9日(日) 日吉キャンパス来往舎

**庄内セミナー**  
 8月29日(土)~9月1日(火) 山形県鶴岡市

4月

5月

6月

7月

8月

9月

**学習相談員による大学生生活スタートダッシュ講座：勉強から課外活動まで**  
 4月2日(木)、6日(月) 16:30~17:30  
 日吉図書館1階ラウンジ

**【「学び場」プロジェクト】**  
 4月13日(月)~7月24日(金)  
 日吉図書館1階スタディサポート

**【読書会】「晴読雨読」第22回：若澤佑典「ラジオ的即興力 26年度の喋り初め」**  
 4月22日(水) 17:00~18:00  
 日吉キャンパス来往舎103/104

**【基盤研究】文理接続プロジェクト第1回研究会**  
 5月9日(土) 午前 日吉キャンパス来往舎

**【HAPP】ライブラリーコンサート2026**  
 5月13日(水)、15日(金) 日吉図書館

**【学会・ワークショップ等開催支援】講演会「わたしの研究余滴—コクトー、瀧口修造、その周辺」**  
 5月23日(土) 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【HAPP】新入生歓迎行事 メイクアップ講座Vol.5**  
 6月10日(水) 日吉キャンパス来往舎大会議室

**【情報の教養学】第3回：伊藤公平**  
 7月1日(水) 16:30~18:00  
 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

**【HAPP】日吉音楽祭2026**  
 7月11日(土)、12日(日)  
 日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホール

**【学会・ワークショップ等開催支援】2026年度日本菌学会菌類観察会(横浜フォーレ)シンポジウム**  
 9月26日(土)、27日(日)  
 日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース、日吉キャンパス第二校舎

※活動予定は中止・延期・変更となる可能性があります。

私の「逍遙(せうやう)グルメ」自慢

経年で味わいたっぷりの喫茶店というのが街にはまだまだあり、御茶ノ水で生まれたわたしはそういう店が大好きです。JR御茶ノ水駅から明大通りを足取り軽く下っていけば古書店街、その裏手にはアルゼンチンタンゴのレコードを、音量を大にして流す、いまはなき喫茶店があり、よく通っていました。いつの時代も学生達を見守ってきた椅子とテーブル、各時代の気配を残した空間、マスターのこだわりが詰まったレコード、その条件を充たす喫茶店は間違いありません。格別の居心地と味を保証してくれます。ネット購入だと読まずに積み上げがちな書籍もリアル店舗だと思いがけない出会いがあり、買ったばかりの喜びを抱えたまま行きつけの喫茶店でページを繰る……日常にこうした時間をつくれると気持ちがぐっと充たされます。お茶をしながら読書する幸せは、慌ただしい日々において贅沢ともいえます。お腹が減ったら店をでて、昌平橋を渡れば、そこにひろがるのは上野のグルメ街。老舗のどら焼きを土産に買い、これまた明治に創業したといとんかつ屋ののれんをくぐって、食後の腹ごなしに石川啄木が新聞社の夜勤帰りにのぼったという切通坂を歩けば、また御茶ノ水がみえてくるのです。

(法学部 村上由美)

